「女王ヒミコの王宮か」－奈良県纒向遺跡の居館－

2009.11.27 大ヤトーク 22

石野博信

1 大王墓群と纒向

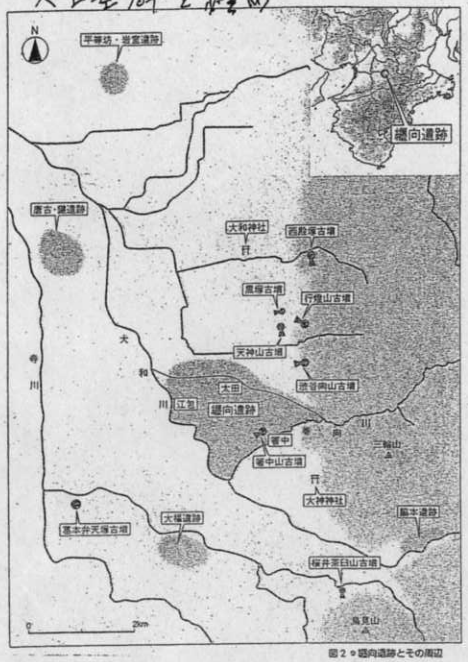


図2・纒向遺跡とその周辺

2 纒向地域

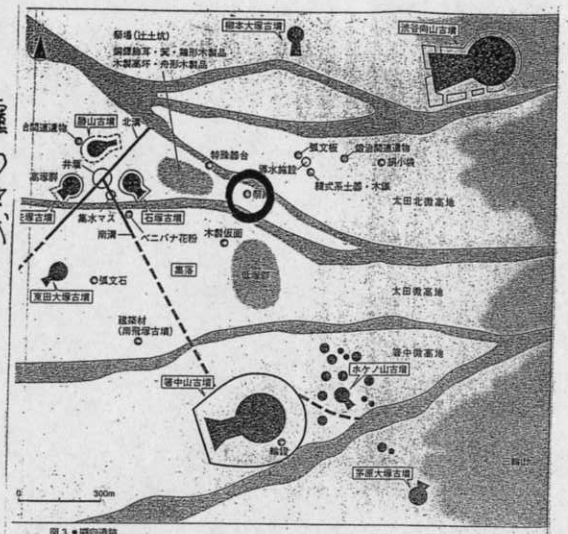
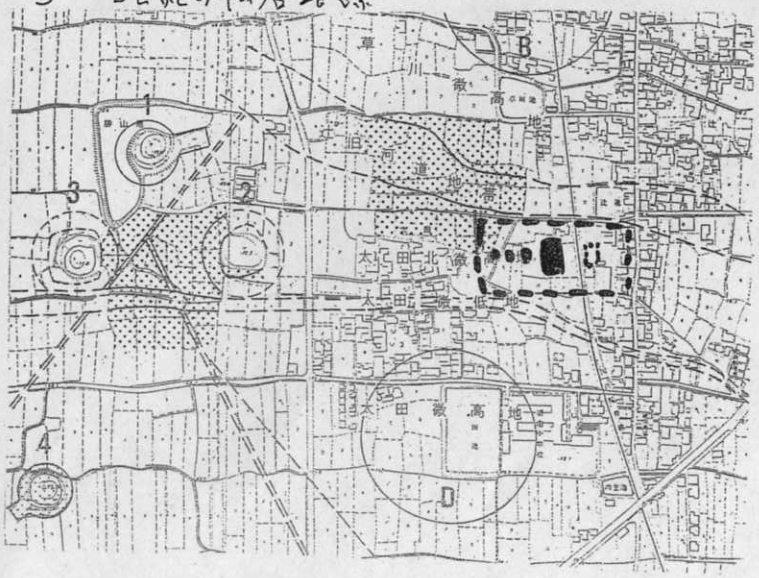
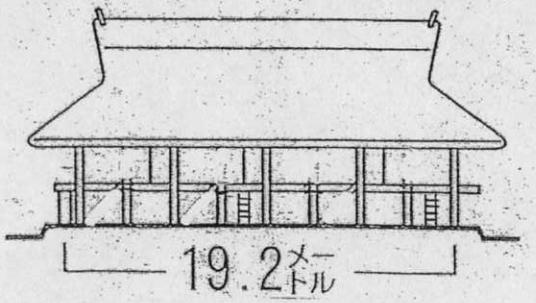


図3・纒向遺跡
三輪山北麓の穴師・巻谷から流れる旧河道が纒向地域の水源となり、いくつかの居住地と墓域を結ぶ。

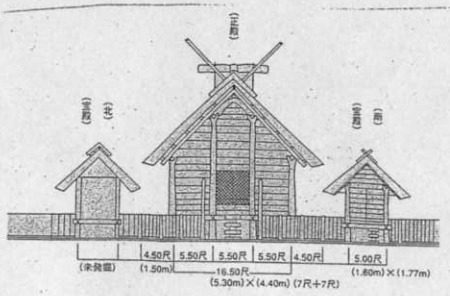
3 3世紀前半の居館跡



4 纒向遺跡の大型建物



5



木村周之(宮大工)による復元。尺は数の魯般尺

6

読売 2009.11.11

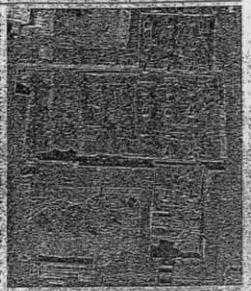
3世紀最大建物跡

卑弥呼の宮殿か

奈良・纒向遺跡

南北19メートル

邪馬台国畿内説で最有力地とされる奈良県桜井市の纒向遺跡で、女王・卑弥呼が活躍した時代とされる3世紀前半～中頃の大型建物跡が初めて出土した。市教委は10日、発表した。南北19メートルと推定され、国内最大の規模で、祭祀を司る女王の宮殿とみられ、日本の国家形成過程を探るうえで貴重な発見とされている。「ここが邪馬台国の中心で、大型建物は卑弥呼の宮殿だった可能性がある」とする研究者もいる。



宮殿の可能性がある大型建物跡（奈良県桜井市の纒向遺跡で、本社ヘリから）＝前田尚紀撮影

関係者によると、建物跡は東西に3列に並び、柱の間隔は約2メートルで、柱の直径は約32センチ。高床式建物だったとみられる。

現場は小高い台地を大規模に造成しており、今回の建物跡を含め、少なくとも4棟が、中軸線をそろえて一列に並び、綿密な計画性がうかがえる。

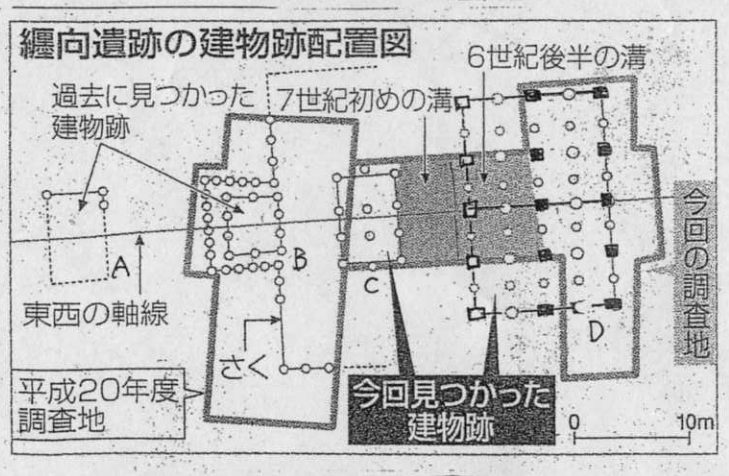
纒向遺跡は3～4世紀ごろの国内最大の集落遺跡で、関東から九州までを originの土器が出土しているほか、「卑弥呼の墓」との説がある箸墓古墳など前方後円墳が初めて造られ、大和王権誕生の地とされる。

現地説明会は14～15両日、午前10時～午後3時。南天理駅から巻向駅に直行する。

「台与（ヒ）の宮殿」

「大型建物が邪馬台国の政治や宗教の中心施設であった可能性は十分ある」

7



8

等間隔で柱跡が並ぶ大型建物跡＝奈良県桜井市の纒向遺跡で10日、貝塚太一撮影